

## 実習指導室より

佐藤 利佳子

### 1 はじめに

学生は実習の中で、喜びや挫折などを経験しながら成長した姿をみせてくれる。学生が安心して実習に向かうことが出来るようにサポートする。そして実習から戻ったあと自分を振り返り、課題を見つけ次へと進んでいけるようにする事も実習指導室の役割だと考えている。

### 2 実習指導室の業務内容

#### 1) 実習園との対外的な連絡内容

本学では原則的には学生自身が実習園を探し、内諾をいただいたのち短大から改めて依頼状をお送りするシステムになっている。

初めての園に直接お電話して実習をお願いすることは学生には厳しいことではある。しかし実習を依頼する時点から実習に対する責任感や意識を高めていく為には大切なことと考える。

学生が内諾をいただいた後の事務的手続き等は下記のようにになっている。

- ① 学生 実習園調査書提出
- ② 学校より実習園に実習依頼状を発送
- ③ 実習園に実習生個人票・健康診断証明書・評価表の発送
- ④ 実習に関する実習園からの連絡、問合せ等の受付及び本学から実習園への連絡・問合せ
- ⑤ 実習終了後実習園への礼状発送

#### 2) 各実習担当教員との連携及び学生への指導等

- ① 提出物の受付

(調査書・実習の目的・個人票・実習園までの地図・自己評価表・実習日誌等)

- ② 学生への掲示物の作成
- ③ 細菌検査の実施
- ④ 学生呼び出し、指導

本学では実習に対する気持ちを引き締め、実習に対する自覚を持たせる意味で、提出物及び呼び出し等の時間、期日を厳しくしている。時間内に提出されなかった物は受け取らず、対応については実習担当あるいは実習委員会にて判断して対応している。

#### 3) 学生への対応

学生が実習指導室を訪れる場合、実習園の資料探しはもちろんであるが、主活動や部分実習等の内容。指導案の作成等また、実習に対する漠然とした不安を抱えて来室する学生が年々多くなっている。そのため実習担当教員と連携しながら個別対応を大切にするよう心掛けている。不安な思いをじっくり聞き一緒に考え、資料を示す等しながら実習に向かう準備を促すようにしている。ただ近年「これはどうすればいいですか?」「上手いかな時、次に何をを用意すればいいですか?」等々全て頼ってきてしまい、自分で考えようとしないうちに、自分では考えられない学生の姿もみうけられる。少しでも自分から考え、実習に対する準備を意欲的に進めていけるよう、全て答えを示すのではな

く、こちらが一步ひいて対応することもある。また、まじめな学生ほど「指導案を完璧な物にしていきたい。失敗したくない。」という思いが強く、形にこだわり園に行ってから臨機応変に指導案を変えていくことが出来ずに悩んでしまう姿が多々見られる。「失敗」と捉えるのではなく「次への課題」「自分の不足していくことを知るための大切な実習」という捉え方が出来るように指導しているつもりであるが、学生になかなか伝わっていかず難しさを感じている。

また近年の学生はきちんとした言葉で伝えることが苦手になってきているようにも感じる。話の内容がうまくまとめられず、用件の途中で言葉を切ってしまうようなことも多々ある。あえて質問を繰り返したり、「それで？」と次の言葉を促したりしている。相手にきちんと用件を伝える。思いを話す。コミュニケーションをとることは保育者にとって重要なことと思う。毎日の些細な会話も大切にして学生と向き合っていきたいと考えている。

### 3 今後の課題

現在、インターネットがより身近になり実習指導室に出向かなくてもいろいろの情報を自ら検索することが出来る。その為実習指導室は書類の提出以外には来室しない学生もいる。連絡等で学生を呼び出すと、何か注意されるのではないかとビクビクしながら部屋にはいってく姿も見られる。学生たちは質問することを躊躇したり、煩わしいと感じているのではないかと思うこともある。学生が自ら調べ考える姿を大切にしながらも、学生たちがもっと気軽に入室して話ができる。そのような雰囲気作りもしていかなければならない。現在、実習指導室の外と中に学生たちが興味を持ってくれるようにと製作物や絵本、手作りおもちゃ等を置いている。それらをきっかけに、話しかけたり部屋に招き入れたりもしている。学生たちによりそい相談にのっていききたいと思っているが、学生自らが実習に対するモチベーションを上げ、意欲をもって実習に取り組む気持ちを持つことが重要である。学生との関わり方を模索しながら学生を支えていきたいと思う。

また、学生たちと話をしていると感じることは遊び（活動）の決めだしの乏しさである。「自分が幼い頃どのような遊びをしてきたのか」「何を楽しいと感じたのか」「子どもたちにどんな経験をさせてみたいか。」など学生に問いかけてもなかなか明確の返答が聞かれない。学生自身の経験の乏しさをどのようにしていったらよいか今後の課題であると感じている。